

平成 27 年度 学校経営計画及び自己評価

1めざす学校像

「人間教育をする進学校」	
本校は創立 106 周年を迎え、建学の精神「報恩感謝」を基盤とした宗教的情操教育の良き伝統を継承し、男女を問わず、周囲に感謝して生きる喜び感じ、何事に対しても前向きに取り組むことができ、グローバル化する国際社会で活躍し、貢献できる「品格と礼節」を備えた生徒を育成する。	
①建学の精神の涵養	－宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する－
②安心安全な学校づくり	－豊かな知識と考える力を備え、社会に貢献できる人間を育成する－
③確かな学力の育成	－高い志を培いとともに生徒の進路希望を実現する－
④新たな歴史の創造	－男女共学へのスムーズな移行－

2中期的目標

1 建学の精神の涵養	－宗教的情操教育を堅持し、我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する－ （１）「宗教」の時間は全コースに配置する。 （２）日々の朝礼・終礼，講堂朝礼を徹底し，東大谷生としての自覚，感謝のこころを育む。 （３）花まつり，報恩講，了秀忌等の宗教行事だけでなく，すべての学校教育を通して建学の精神「報恩感謝」の念を育む。
2 安心安全な学校づくり	－豊かな知識と考える力を備え，社会に貢献できる人間を育成する－ （１）本校独自の取り組みである「学びの NEW STYLE」の充実と教員の授業力の向上をはかる。 （２）グローバル化が進む社会で活躍する人間の育成のために，授業における ICT 機器の活用を図り，国際理解教育を推進する。 （３）挨拶，身だしなみ等伝統の生活指導を徹底し，国際社会に必要なマナーを身につけさせる。 （４）教育相談機能，「ほっとすルーム」機能を充実させるとともに，身体と心の健康づくりを進め，安心・安全な学校づくりを推進する。 （５）生徒会活動・学校行事や部活動を通して，仲間とともに創造する喜びと困難を乗り越える力，リーダーシップを育む。 （６）地域の幼・小・中学校，自治会等との連携をすすめ，地域とともに生徒の成長を育む。
3 確かな学力の育成	－高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する－ （１）高い志を育み，生徒が主体的に学ぶことができる授業をめざして，「人間教育をする進学校」という意識を定着させる。 （２）教職員の授業力の向上を最重要課題とし，公開授業，研究授業のほか適切な研修を取り入れる。 （３）「特別進学コース」「言語・国際コース」「進学探究コース」の生徒の実態を踏まえ，各コースのさらなる充実に努める。 （４）大阪大谷大学等との高大連携をすすめ，生徒自らが意欲を持って学習する態度を育成する。 （５）既存のオーストラリア海外研修だけでなく，短期・長期の海外留学制度を創設するなど積極的な国際交流を図る。豊かな国際感覚に裏付けられた語学力を育成する。
4 新たな歴史の創造	－男女共学へのスムーズな移行－ （１）東大谷の新たな歴史創造の意識を涵養する。 （２）共学校としての特色づくりを図る。 （３）積極的な募集活動を行い，入学者定員を確保する。 （４）生徒・保護者の満足度の高い学校をめざす。

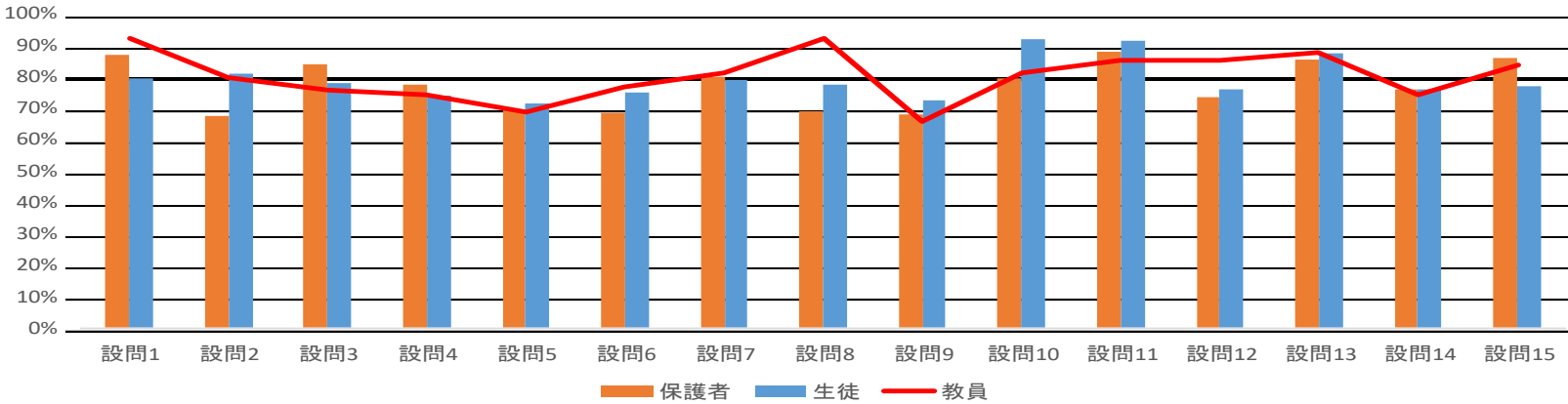
【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 27 年 12 月実施分〕	学校協議会における提言内容
保護者からは、本校教育の柱である「建学の精神に基づいた特色ある教育」、「生徒間の好ましい人間関係構築」の項目等、本校教育方針とその実践において高い評価をいただいている。反面、学校からの情報発信不足への評価は厳しい結果となっており、早急に取り組まなければならない課題と考える。 生徒からは、「基本的生活習慣が身につく生活指導」、「生徒間の好ましい人間関係構築」の項目等で高い評価となっている。普段の厳しい生活指導が生徒に信頼されている結果と考えられるが、進路指導、学習指導等の項目において 70％台となっている。この点については、「授業の指導方法や内容に工夫がなされている」について、教員による評価 91.8％が保護者 68.9％・生徒 77.2％と評価が大きく乖離している。今後「生徒による授業アンケート」を活かした授業力向上の取り組むことが最大の課題と考える。 総合的満足度として「本校に入学してよかった」の項目については、保護者 85.5％と高い評価を得ているが、生徒 76.8％と約 10 ポイントの差があることを踏まえると、学習指導、進路指導のさらなる充実が求められている。	<各委員の意見> ・学校教育自己診断においては、肯定的評価よりは否定的評価の観点から課題を考えるべきである。特に否定的評価 200 ポイントは大きな課題だ。アンケートの取り方を吟味する必要がある。具体的な数値目標の設定が必要。全教科でのアクティブラーニング実施必要。生徒の学力と生活態度の相関関係など多面的な分析が必要。情報発信方法の改善。 ・課題のまとめ・・・ ①生徒の自学自習の弱さ改善 ②評価方法の問題・・・肯定的評価より否定的評価を細かく分析すること ③保護者への情報の伝達 <提言> ・入学当初の「黄金の 3 日間」で徹底して予習させる習慣をつけさせること。 ・定着度テスト→追試→課題を繰り返し。小テスト不合格者を残留させて合格に導くこと。 ・褒めて自己肯定感を高めること。 ・生徒に目標設定させることが必要。そのうえで、きめの細かい指導を。 ・指導に乗れない生徒のフォローが欲しい。 ・メール等を利用した情報発信を活用することで、保護者評価 90％をめざしてほしい

学校評価アンケート結果

(肯定的評価とは、評価「そう思う」「多少そう思う」を指します)

		設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15
教員	そう思う	35	18	21	13	17	17	14	20	10	20	25	28	27	17	20
	多少そう思う	32	40	34	41	33	39	45	47	38	39	37	34	37	37	41
	あまりそう思わない	5	12	15	16	18	14	13	5	20	10	11	9	9	13	11
	そう思わない	1	3	3	3	5	3	1	1	5	4	0	2	0	6	1
	肯定的評価の割合	91.8%	79.5%	75.3%	74.0%	68.5%	76.7%	80.8%	91.8%	65.8%	80.8%	84.9%	84.9%	87.7%	74.0%	83.6%
保護者	そう思う	365	163	308	299	239	244	289	134	280	288	344	238	416	281	452
	多少そう思う	438	463	470	423	403	393	455	488	354	447	476	442	383	399	343
	あまりそう思わない	97	253	121	157	224	233	151	230	225	151	90	184	106	152	89
	そう思わない	24	51	29	53	64	62	36	51	76	43	23	62	31	67	46
	肯定的評価の割合	86.9%	67.3%	83.8%	77.5%	69.0%	68.3%	79.9%	68.9%	67.8%	79.1%	87.9%	73.4%	85.4%	75.6%	85.5%
生徒	そう思う	258	430	243	281	219	240	244	216	237	483	477	251	394	323	300
	多少そう思う	593	437	588	509	543	563	599	612	535	502	501	562	541	487	523
	あまりそう思わない	169	152	201	199	262	221	180	199	233	65	65	192	98	139	167
	そう思わない	52	53	40	83	48	48	49	45	67	22	29	67	39	123	82
	肯定的評価の割合	79.4%	80.9%	77.5%	73.7%	71.1%	74.9%	78.6%	77.2%	72.0%	91.9%	91.2%	75.8%	87.2%	75.6%	76.8%



学校評価アンケート設問

		教員	保護者	生徒
設問1	学校運営	建学の精神に基づいた特色ある教育が行われている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている	学校は建学の精神に基づいた特色ある教育を行っている
設問2	学校運営	保護者への情報公開は適切でよく連携が取れている	学校からの情報公開は適切でよく連携が取れている	学校からの情報や資料は保護者に見せている
設問3	学校運営	防犯、防災、安全管理への対策が十分整っている	学校は危機管理や安全対策に努めている	学校はさまざまな安全対策をとっている
設問4	進路指導	各自の進路希望に応じた科目選択ができる	子ども自身の進路希望に応じた科目選択ができる	自分の進路希望に応じた科目選択ができる
設問5	進路指導	進路に関するきめ細やかな指導が行われている	学校は進路に関するきめ細やかな指導を行っている	進路に関するきめ細やかな指導が行われている
設問6	進路指導	進路に関する十分な情報を提供している	学校は進路に関する十分な情報を提供している	進路に関する情報は十分に知らされている
設問7	学習指導	生徒は熱心に授業を受けている	子どもは熱心に授業を受けている	授業中は集中することができている
設問8	学習指導	授業の指導方法や内容に工夫をしている	授業の指導方法や内容に工夫がなされている	先生は授業の指導方法や内容に工夫をしている
設問9	学習指導	生徒に自ら学ぶ習慣を身につけさせている	子どもは自ら学ぶ習慣が身につけてきた	積極的に学ぶ習慣が身につけてきた
設問10	生活指導	基本的生活習慣が身につく生活指導が行われている	基本的生活習慣が身につく生活指導が行われている	挨拶や礼儀、登下校時のマナーなどをきちんとしている
設問11	生活指導	生徒間の好ましい人間関係の構築に努めている	生徒間に好ましい人間関係が構築されている	生徒どうしの人間関係は良好である
設問12	生活指導	生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している	子どもの悩みや問題に対して丁寧に対応している	先生は生徒の悩みや問題に対して丁寧に対応している
設問13	特別活動	学校行事に積極的に取り組ませている	子どもは学校行事に積極的に取り組んでいる	学校行事に積極的に取り組んでいる
設問14	特別活動	部活動の指導には熱意をもってあたっている	教員は部活動の指導には熱意をもって当たっている	部活動の指導では先生の熱意を感じる
設問15	総合評価	生徒は充実した学校生活を送っている	子どもを本校に入学させてよかった	本校に入学してよかった

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神の涵養	(1) 宗教的情操教育による豊かな人間性の涵養 (2) 伝統の継承	① 宗教担当教員と担任が密に協力して、朝・終礼、講堂朝礼指導を徹底する。 ② 宗教行事（報恩講、花まつり）を、伝統の意識を共有させる。 ③ 宗教委員に宗教行事の運営に参画させる。 ④ 4月に1年生の宿泊研修を実施し、東本願寺参拝を組み込み、東大谷高校のルーツを体得させる。	ア 管理職による点検 イ 生徒感想文 ウ 長期休業後に提出される保護者意見 エ 学校教育自己診断（設問1）	①朝・終礼の徹底が本校教育の出発点の意識をもち全教員で取り組んできた。学校教育自己診断の評価は、保護者(86.9%)・生徒(79.4%)。教員の意識(91.8%)との乖離が見られた。(△) 朝終礼の意義を生徒に正確に伝えるため職員への宗教研修を行い生徒保護者の評価90%をめざす。 ②「報恩講」を本校創設の地「南御堂」にて実施した。生徒感想文からも、本校の伝統と格式を実感したとの評価高い。(○) 今後も、「南御堂」において定期的に継続実施する。 ③講堂朝礼の導唱が全員男子生徒の学年もあり、男女問わず生徒たちに参画させることができつつある。(○) ④入学直後の1年宿泊研修にて、本校生としての自覚、本校教育方針、生活指導方針を徹底することができたと生徒感想文多い。(○)

2 安心安全な学校づくり	(1)「学びの NEW STYLE」の推進 (3) マナー指導，しつけ教育の徹底 (2) 自律的生活習慣の確立 (3) 部活動の活性化	① 新たな取り組み「学びの NEW STYLE」の指導法の継続的に点検する。 ② ICT 機器の教育活用法の実践例を蓄積する。 ③ マナー指導，登下校指導，服装等，生活指導部を中心に全教職員で取り組む。 ④ 防災，薬物乱用等に対する意識の向上の教育を実施する。 ⑤ 「ほっとすルーム」対応体制を強化する。 ⑥ 生徒会活動・部活動のさらなる活性化を図り，学校への帰属意識，愛校心を育む。 ⑦ 生徒主体に地域活動に積極的に参加する。	ア 「探究ゼミナール」プレゼンテーション大会実施 イ 授業評価アンケート ウ 薬物乱用防止・SNS の使い方について講演実施 エ 部活動活動成績 オ 学校教育自己診断（設問 2, 3, 10～14）	①「探究ゼミナール」2 年目。今年度はNIEと連携した取組を行い，「NIEコンクール」にて，本校の取組が「学校奨励賞」受賞。高い評価をいただいた。報告集も刊行できた。（◎） ②昨年度の報告書を活かした指導で 2 月にプレゼンテーション大会実施。生徒のICT活用能力が昨年以上に発揮された。その場での生徒によるプレゼン投票・結果発表が可能となった。（○） ③登下校指導は担任外教員を中心に継続実施した。（○） ④防災避難訓練，薬物乱用教室等も継続実施した。情報発信が少ないとの学校教育自己診断の保護者評価(67.3%)あり。（△） 今後はホームページや家庭緊急連絡システムを活用し，情報発信を充実させ，少なくとも評価 80%をめざす。 ⑤全授業時間に教員配置した。きめの細かい指導が継続できた。（○） ⑥文化祭では，新たに垂れ幕作成を行うなど，生徒会活動も活発化した。バトン部が全国 1 位となり，今年もアメリカでの世界大会に出場。学校教育自己診断でも積極的な学校行事の取り組みをしていることの保護者(85.4%)，生徒(87.2%)と評価が高いが，部活動指導では保護者・生徒とも(75.6%)と，さらなる部活動の活性化が課題。（△） 次年度テニスコート等の学外施設を効果的に活用し部活動の充実を図る。 ⑦地域の様々な行事に部活動を中心に参加し，地域ミニコミ誌にも数回取り上げられた。今後も，地元の健全育成協議会の取り組みにも参加継続する。（○）
3 確かな学力の育成校	(1) 主体的な学習態度育成	① 「10 年未来プロジェクト」「探究ゼミナール」等，本校独自のアクティブラーニングの充実を図り，学ぶ意欲を育む。 ② 生徒による授業アンケートの充実と効率的な活用を図るとともに，授業力の向上を図る。 ③ 男女共学化による各コース生徒の意識変化を踏まえ，各コース内容の充実を図る。 ④ 長期・短期留学制度の創設を行う。 ⑤ 高大連携を強化し，学ぶ意欲を育み，進路希望の明確化を図る。 ⑥ 「朝の読書」の時間の充実等により，国語力の強化を図る。 ⑦ 進学希望生徒の増加に伴い，教育課程，学校行事の見直しを行う。	ア 「探究ゼミナール」プレゼンテーション大会実施後の生徒評価 イ 「探究ゼミナール」成果報告書の作成 ウ 授業アンケート エ 学校教育自己診断（設問 4～9）	①自ら学ぶ意欲も持たせる指導法の蓄積を図りつつあるが，生徒の授業アンケートでも各教科科目の「予習復習する」の生徒評価は極めて低い。（×） アンケートの結果をもとにアクティブラーニングを含め，生徒に意欲を持たせる教科指導の在り方を再検討し，設問 9 で評価 80%をめざす。 ②生徒による授業アンケート2回実施。評価を受けて各教員から振り返りシート提出義務化。その後，教員研究授業週間を実施。2 回目に評価が改善された者 24 人/56 人。（△） 保護者参観と同時に教科別研究授業を実施する。 ③共学化後，進路希望が多様化。学校教育自己診断においてもきめの細かい進路指導の在り方が保護者(69.0%)，生徒(71.1%)と低い評価となった。（△） 多様な進路の指導に向け，進路指導部を中心とする校内体制を再検討し，部会の情報が担任に確実に伝わるようにし，評価 80%をめざす。 ④1 年及び 3 か月の NZ 留学制度を創設した。試行として 1 年女子生徒が 1 年留学に出発。（○） 今後 NZ の提携校の拡大を図る。 ⑤関大，近大との連携講座実施。（○） 今後は大阪大谷大学との学内連携を深める。 ⑥「朝の読書」については，昨年通り実施。（△） 読解力の充実を図るため漢字検定や文章検定に取り組ませる。 ⑦「将来構想委員会」を立ち上げた。男女共学化に伴う本校への生徒・保護者の意識変化，教育改革の動向を踏まえ，カリキュラムの改善，指導体制の改革案作成。（○） 今後，職員研修を通して，教員の意識改革を進める。
4 新たな歴史の創造	(1) 新たな歴史の創造	① 泉ヶ丘校舎において，男女の進学希望者に対する今までのやり方にとらわれない進学指導体制づくりを行う。 ② H28 年入学者募集体制を強化し，定員確保に向けた活動を徹底する。 ③ 全国の教育改革の動向を把握し，本校の指導体制の改善を行う。 ④ 生徒保護者の満足度の高い学校をめざす。	ア 生徒感想 イ 長期休業後に提出される保護者意見 ウ 大学受験指導講習実施 エ H28 年入学者数 オ 学校教育自己診断（設問 15）	①3 年勉強合宿，特別編成授業等に校内予備校等の実施など，新たな進学指導の取り組みを加え実施。センター試験受験者が 200 名を超え，共学化に伴う多様な進路選択に対応した。（◎） 次年度 3 年生は 150 名と少人数でさらにきめ細かい指導を行う。 ②広報活動を強化し，H28 年度は 280 名定員に対して 288 名の入学者を得た。（○） ③「将来構想委員会」の創設，生徒の現状を踏まえた進路実現を図るカリキュラムの検討，体育大会を 9 月から 6 月実施等学校行事の適正化を行った。（○） 「人間教育をする進学校」実現に向けてさらに検討を重ねる。 ④総合的満足度は生徒 76.8%と低かった。（×） 次年度はアンケートをもとに職員の意識改革を進めるために研修の場を持ち，満足度 100%をめざす。

平成27年度 学校協議会メンバー

氏 名	役 職
東 京子	成美会（同窓会）役員
有本 昌剛	関西外国語大学 教授
至 孝也	三原台中学校 校長
河原 正明	平成27年度PTA会長
出口 雄一	野村中学校 校長
中村 俊一	立志館ゼミナール館長
堀川 浩	北池田中学校 校長
宮坂 政宏	週刊教育プロ編集員
山本 恵士	堺予備校 塾長